

第 45 回 志茂まちづくり協議会 議事要旨

日 時：令和 6 年 10 月 24 日（木） 19：45～20：50

場 所：志茂ふれあい館 ホール A・B

出席者：18 名（うち、志茂まちづくり協議会 役員 9 名）

事務局 北区防災まちづくり担当部防災まちづくり担当課 5 名（長久保、勝田、高杉、草間、森岡）

活動支援コンサルタント 3 名（木村、永島、植田）

■開会

【事務局より、配布資料の確認】

1. 志茂まちづくり協議会副会長（会長代行）挨拶

2. 報告事項および協議事項

【事務局より、次第「（1）今後の役員体制について」「（2）今年度の活動について」「（3）事業の報告等」「（4）その他」について、説明】

3. 質疑応答

≪①無電柱化チャレンジ事業について≫

参加者：電線共同溝本体工事の金額が合わず入札不調になったかと思う。6 か月遅れることになると思うが、令和 9 年度完成予定に対して影響はないのか。今後、引込管工事についても発注がかかると思うが、連鎖的に不調が起こり、工期がずれていく可能性もあると思うがどうか。

事務局：不調の影響はもちろんある。その中で令和 9 年度完了を目指して行きたいと思っている。連鎖的に不調とならないように、精査を行い、進めていきたいと思っている。電線共同溝本体工事が遅れるため、並行して工事ができるものではないため、引込管工事の開始時期にも影響がでるが、全体として、令和 9 年度までに頑張りたいと思っている。

参加者：入札不調ということは、金額が足りず、予算が足りないということかと思う。建築資材や人件費が上がっているためだと思う。この工事について、北区の負担はないか。東京都の負担で合っているか。

事務局：基本的には、東京都と国の中で補助対象となる部分については区の負担はない。

参加者：補助対象となる部分ということは、区の負担分もあるということか。

事務局：工事内容によってはある。

参加者：以前は夏頃に受注業者が決定し、工事ということだったが、ずれ込むということについて、こまめに沿道の方や通行する方に情報提供をお願いしたい。現状、情報提供が足りていないと感じている。沿道の方には様々な事情を抱えて生活している方もおり、工事時期によりその判断に影響がでるため丁寧に説明する必要がある。また、無電柱化チャレンジ事業で先工区については事業化して進めているが、この区間を地区計画の中で将来的に電柱の新設を認めないという規定をする可能性は考えているか。東京都は都道への電柱の新設を認めないという条例を作っているが、それと同じように無電柱化する路線について、今後地区計画の中で電柱の新設を一切認めないという規定を設けて、より強力に無電柱化された良い環境を維持していくことを地区計画で位

置付けることは可能か。

事務局：今回の整備区間は区道のため、無電柱化した後に、電柱が建つということは当然ないようにするものと考えている。

参加者：占用許可を出さないという運用で行っていくということか。

事務局：せっかく無電柱化したところに、新たに電柱を建てることはしない。

参加者：結果は変わらないと思うが、地区計画について、今後水害を視野に入れて考えよう等、ダイナミックな見直しをする機会があれば、一つの方策として、電柱の新設を認めない等の地区施設の位置付けを行うこともできるのではないかと思った。

参加者：先程の続きとなるが、電線の共同溝の工事ができないと引込管の工事ができないという認識で合っているか。完了も令和9年のうちの末の方に6か月ずれるという認識で合っているか。

事務局：合っている。工事手順としては、共同溝をいれて、そこに引込管をつないでいくため、両方一緒に行うわけではなく、手順を追っていくため、ずれるという認識で合っている。

参加者：すでに電線共同溝の工事が令和7年の半ばくらいまでずれこむという状況のため、引込管工事や舗装復旧自体も全体的にずれたスケジュール表にならないとおかしいと思うが、実態としてそうなるか。

事務局：その通りである。引込管工事について、どの程度短縮できるかも含めて極力早く完成させたいと思っている。

②かわまちづくり計画について

参加者：かわまちづくり計画の対象エリアが違うのではないか。かわまちづくり協議会で議論しているのは、荒川大橋と青水門までではないか。野球場等青水門の先はエリアに入っていないのでは。

事務局：範囲としては、おおむね図に示しているとおりであり、協議を行っているところである。野球場など使い方についてのご意見があったと認識している。

参加者：面白い取り組みだと思う。この取り組みは新しく人流を創出するために開発を進めていくのか。

事務局：様々な目的があり、人を呼び込むことや憩いを楽しむ、人流を創出することも大きなテーマである。

参加者：施設の整備、ハード施策をみると川岸の際まで利用するように思う。そこまで利用できたら良いと思う反面、荒川は氾濫すると危ないと感じている。また、大雨等でこら辺（中州とか）は水に浸かるなど影響を受けやすいのではないかと考えている。ハザードマップをみると、志茂一体は沈むことになっている。防災計画とかわまちづくりはどのように整合性をとっているのか。その点について、情報共有をしてほしい。

事務局：ハザードマップでは、浸水区域となっている。一方で、かわまちづくり計画は賑わい創出などの性質面がある。

参加者：災害時に施設を使うことを考えているわけではないが、水害の影響を受けると、その後の平時に使うことができなくなると思う。今後、国に申請するに当たり、そういった面を説明していく必要があるのではないか。絶対に氾濫しないような塀を作るのか、川の水を逃がせるような新しい貯水地をつくるのか、そういったことを一緒に進めていかないと現実性が足りないと思う。

事務局：色んなご意見ありがたいが、パブリックコメントに関する説明会の場もあるため、そういった場を活用いただけるとありがたい。

参加者：P8 イメージ図の左側はイメージできるが、右側の建物がある方のイメージはどこを指しているのか。志茂側の堤防は高い塀となっている。建物がいないため、右側にあるような建物とオープンカフェがあるような親水空間は存在していない。河川空間のオープン化とイメージが書かれているが、本当に作るのであれば、堤防の在り方自体を変えないと実現できないと思う。現実的にはゴルフ場や野球場があるところを整備するということであるが、河川

管理自体は、スロープ、階段、通路、トイレ、照明などは自治体側で整備することになる。川の中に挟まれた孤立したところのため、整備することは良いがどうやって賑わいをつくるのかという点が課題である。志茂のまちとの接点は橋であり、橋のたもとの志茂側のところにまちの拠点みたいなものがあり、初めて全体がネットワークしていくと思う。そういった絵を書き、まちづくりの結節点とそれに向かう動線、駅から至るまでの街路整備、沿道にどういう商店を張り付けていくのかについて、考えないと賑わいのあるかわまちづくりにならないと思う。かわまちづくり計画の赤で示されているところをメインで検討することは良いが、志茂側のうすだいたい色のところとの関係性について、議論し、我々のまちとどうつながっていくのかビジョンを示していただけるようにしてほしい。今回のスケジュールではまとまらないと思うため、じっくり議論をしてから、国に登録申請をする流れにした方が良くと思う。

事務局：今回は情報提供という形でお示した。所管に意見を伝えるが、別途、パブリックコメントに関する説明会の場を活用いただけるとありがたい。

参加者：所管はまちづくり推進課で合っているか。

事務局：そうである。

③電柱の移設・狹隘道路拡幅の事前協議について（資料なし）

参加者：担当は建築課か。

事務局：そうである。

参加者：検討対象は電柱だけではなく、道路標識等も考えて欲しい。消防自動車を通れないため、下がってもらい、隅切りを行っている。しかし、隅切り部に標識やカーブミラーが残っていると意味がないと思う。

事務局：標識等も含めて、確認しておく。現在は、電柱について話をしているが、改めて申し伝えておく。

参加者：建築課へお伝えいただき、検討いただけるという回答があった。まずは一歩前進だと思う。問題が多岐にわたる中で、根本の解決方法として、条例で事前協議を義務付け、建築確認をもらう前にセットバック部分について、どう整備をするか区と話合う機会を設けたらどうかという提案である。条例化を念頭においてほしい。

（４）その他

★防災について見直しましょう 第二弾地震について備えましょう

参加者：12 ページ、「志茂地区の 60%以上の建物に倒壊等の危険が！」と書いてあるが、志茂地区と1つにまとめられてしまうと他人事のように感じてしまうため、危機感を感じない。過去の資料では、一丁目から五丁目までそれぞれに危険度の一覧表を出して議論していたと思うが、出すことができないということか。町丁目ごとの方がわかりやすいと思うがどうか。

事務局：昨年度行った協議会の中で町丁目ごとの集計を出していた。同じ内容になってしまうため、今回は割愛しわかりやすく示した。それぞれのデータは持っている。

参加者：不燃領域率のことか。

事務局：各町丁目の不燃領域率や建物種別のデータがある。

参加者：改善率や進捗率を出すことはできないのか。改善が見えると実感がわくと思う。

事務局：今後、進捗率を示したいと思う。

参加者：今回は建物の耐震についてだったが、インフラの耐震の情報は持っているか。（志茂地区は）地盤が脆弱である。建物がしっかりしていても、地盤が脆弱なため、転んでしまい倒れるリスクが高いエリアである。液状化も起こると思うし、道路が被害を受け、緊急車両も通れないような状況が想定される。まち全体の防災力としては、

インフラがどうなっているかが知りたいところである。可能であれば、建物だけではなく、インフラについての耐震情報を開示していただけると良いと思う。

参加者：本地区は、大きい下水管が通っていると思う。下水管についての耐震化や学校等の建物周辺で下水管やガス管等の耐震化の整備を行っていたため、そのあたりのデータも欲しい。

参加者：液状化も含めて、地震がきた際にどうなるか、教えて欲しい。

事務局：志茂地区は水を含んでいる地区なため、液状化のリスクは高いと思われる。インフラ整備の耐震情報については、今後説明できればと思う。

(5) 報告事項および協議事項以外の内容について

«進行について»

参加者：本日、色んな内容について説明があった。全てをまとめて質疑応答とすると話が複雑になる。項目別に話し合いを行い、最後にその他思っていたこと等まとめて時間をとる方が良いと思う。

参加者：かわまちづくり計画について、この場では情報提供であり、内容に意見のある方は説明会でご意見いただければという説明が事前にないと、本協議会で話していく内容ととらえてしまう。かわまちづくり計画があることを認識し、連携をとっていく必要がある。平時は良いが、災害時は河川敷に施設がたくさん整備されていると危ないという話もあるため、川を恐れるところと、活用していくところで上手くバランスを取っていく必要がある。本協議会でどの程度扱っていくか整理してから話をしてほしい。

参加者：この協議会では、色んな提案が出てくるが、役所は縦割りの傾向があり、所管に伝えるというだけで話が終わってしまう。所管からの回答が返ってこない。せっかく言った意見について、答えが戻ってこないことについて、歯がゆい思いをしている。必要があれば、出ている話題について所管課が直接協議会へ参加し、生で意見を聞いていただき、持ち帰ってそれぞれの部署で検討してほしい。そういった場が必要かと思う。これまでは、区から提案があり、それについて、協議会で意見を出しているが議論というよりは、意見の一方通行になっていると思う。双方向で議論し、何かものを作り上げていけるような場にしていく必要があると思う。

事務局：改めて申し伝えるとともに、いただいたものを返すようにする。協議会の在り方について、事務局として、まちから参加している方が主役となり、盛り上げていくことがあるべき姿と思っている。そういったものができるかはよく考えていきたい。

«ゴミ問題について»

参加者：花火大会など志茂橋でイベントを行った際に、志茂五丁目としては、帰りにペットボトル等のゴミをポイ捨てしていく。ゴミ箱があふれ、文句を言われているところがある。そういった面も考えて、イベント運営をしてほしい。

事務局：ご迷惑をお掛けしている。所管の方と共有する。

«商店会について»

参加者：志茂一丁目町会で近い将来、商店街が解散すると思われる。その場合、商店街の街路灯が全て撤去される。その際、私道などの街路灯が撤去されると沿道が真っ暗になってしまう。防災まちづくりの観点として、考えていきたい内容である。産業振興課などと調整はあると思うが補助 86 号線の事業を担当している課だと思うので、考えて欲しい。補助 86 号線の商店街を壊して、道路を作ろうとしているのは東京都であるため、その責任は東京都にあると思う。商店街が仮に解散し、全て撤去した場合、誰がつけるのか、私道の場合、北区は対応

しないということであれば、真っ暗な状態で放置されることになる。それを全て自治会が整備することはしない。自治会会員が半分くらいの加入率の中で、街路灯を何百万もかけて建てることはできない。東京都と北区とよく話合っていたきたい。

事務局：都と区と町会とそれぞれの意見を聞き、上手く解決できればと思う。

《北本通りについて》

参加者：北本通りについて、道路を少し広げている工事を行っているように思うが、東京都から情報はるか。

事務局：都と情報は共有しているが、手元に資料がないためこの場で、工事の詳細な説明は難しい。

以上



協議会開催状況